

# 令和6年度 学校評価実施状況

京都教育大学附属特別支援学校

## 1. 活動状況

- 令和6年 5月 個人懇談の実施  
令和6年10月 個人懇談の実施  
令和6年12月 保護者アンケート・教職員アンケート実施  
令和7年 2月 学校評議員会実施 学校関係者評価実施 教職員自己評価実施  
個人懇談の実施

## 2. 教育計画（年度重点目標）に関する具体的な取組についての評価

重点目標	(1) 個別の指導計画を活用し、小学部・中学部・高等部の一貫性・系統性を重視し、今及び将来の社会につながる教育課程を創造する。
具体的な取組内容	(1) - 1 児童生徒の学習の成果を的確に捉え、学習内容や支援方法を検討し授業改善を行っていく。また、その成果を教育課程の編成につなげる。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	教員の長期休養や育児休暇もなく、年間の教育課程を指導計画に沿って、ほぼ予定通りに実施することができた。
学校関係者評価内容	子どもたちは、のびのびと学習している様子がうかがえとてもいいと感じる。急速な社会変化の流れをつかみ、今及び将来の社会につながる教材や単元を加えていくことが求められた。
改善策	教職員から、個別の指導計画の様式が複雑であることや、あまり活用できていないとの感想があった。特別支援教育の根幹となる個別の指導計画であるが、様式の簡略化を含め、教育課程や個別のカリキュラムに反映できるように改善していく。

重点目標	(2) 安全・安心で、ニーズに対応した学習環境づくりを行う
具体的な取組内容	(2) - 1 ICT 機器を積極的に活用するため、教職員の ICT 機器についての学びを深める。
自己評価区分	C：十分には達成できなかった
自己評価内容	ICT を扱う校務分掌に研修の役割を持たせ、機能させていく計画であったが、業務多忙のため、メール等による情報発信だけで終わったため、教職員の深い学びには、つながらなかった。
学校関係者評価内容	ICT について学びたいと意欲を持っている教員は多い。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の ICT に関するニーズ（機器、アプリに関することや児童生徒の目標に向けた使い方など）を細かく捉え、研修を企画する。</li> <li>・機器の環境設定を ICT 支援員さんと連携して、環境を整えていく。</li> </ul>
-----	--

重点目標	(3) 家庭・地域との連携を深める
具体的な取組内容	(3) - 1 「かめっこクラブ」の畑の作物収穫等、場の提供等を通して子育て支援を継続し、藤城社会福祉協議会や藤城自治会連合との連携を深め、児童生徒が活動できる場を広げる。
自己評価区分	C：十分には達成できなかった
自己評価内容	「かめっこクラブ」の本校での活動は月に2回程度、予定通りに実施できた。「かめっこクラブ」を通じて、伏見区役所子どもはぐくみ室の担当の方とつながり、地域での催しの案内をいただくことができた。それらのつながりを通して、児童生徒が活動できる場を検討する材料の一つとなった。
学校関係者評価内容	「かめっこ」を運営されている藤城社会福祉協議会は、一緒に活動をしたいと考えておられるが、参加人数が不安定なことや運営者も数が少ないため、中々、具現化することが難しい現状。ただ、引き続きつながりを大切にしながら、考えていきたいとのこと。
改善策	「かめっこ」さんとの関係は、これまでと同様に維持をしていく。伏見区役所子どもはぐくみ室の担当者とのつながりを深め、活動の場を考えていく。

重点目標	(4) めざす教育の実践を推進する
具体的な取組内容	(4) - 1 今年度の研究テーマを通して府立・市立の支援学校との互いの連携を深め、教育実践につなげる。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	府立宇治支援学校と京都市立東総合支援学校と昨年に引き続き研究協力校として連携を行った。(延べ18名の来校、9名が他校へ訪問)。授業参観後、感想や質問を受けたり、訪ねたりして、授業づくりや課題について話し合った。その結果を本校研究部の中で生かせる点や取り入れなければならないことなどを整理する要素にすることにできた。
学校関係者評価内容	2年目の取組ということもあり、日程調整などの段取りをスムーズに組み立てることができた。協力校からは興味のある教員が積極的に参観したいと申し出るなど、他校の教員の専門性の向上にも役立っている。3年目についても希望されている。
改善策	今年度の研究の方針にもよるが、かかる経費の問題や研究協力校の幅を広げていくことで、より多くの学びを教員与えられるのではないかと考える。

### 3. 附属学校園の機能向上に関する具体的な取組についての評価

重点目標	(1) 教育研究活動の成果を公表する。
具体的な取組内容	(1) - 1 京都府・市教育委員会と協力しながら、研究発表会を開催する。
自己評価区分	A：十分達成できた
自己評価内容	京都府教育委員会、京都市教育委員会の指導主事を招き、分科会の指導助言をしていただいた。「わかりやすい助言だった」と、研究発表会の参加者の感想にあった。
学校関係者評価内容	研究発表会の感想として「やることがわかって自分から意欲的に活動する姿が印象的でした。環境に助けられているところもあるかと思いますが、先生方の日頃の接し方や指導のつながりなのかなと見させていただきました。」など、附属の環境を生かした授業づくりに高評価をいただきました。
改善策	研究発表会については、今年度の研究の方針にもよるが、昨年度は平日開催にしたことにより、参加者が少なかったこともあり、今年度は土曜日開催にする。たくさんの参加者に来ていただくことで、たくさんの意見をいただき、来年度の研究方針を見い出すきっかけとしたい。今年も両教育委員会とも連携を行っていく。

重点目標	(2) 大学と附属学校園とが連携した研究を実施する。
具体的な取組内容	(2) - 1 大学と附属学校園とが連携した同研究「教育研究改革・改善プロジェクト経費」に申請する。
自己評価区分	A：十分達成できた
自己評価内容	申請したプロジェクトについては、2月7日の研究発表会を1年間のまとめと想定し、計画したことをほぼ予定通りに実施することができた。成果については、数字に残るような大きな結果としては表せなかったが、今後の人事交流や本校の教育課程の変更に影響を与えるようなきっかけとなったと感じる。
学校関係者評価内容	上記、研究に関する評価と同じ
改善策	今年度も大学の寄与できるように研究を積み重ねていくために、申請をしていく

重点目標	(3) 総合教育臨床センター学びサポート室と連携する。
具体的な取組内容	(3) - 1 総合教育臨床センター学びサポート室共同実践者を2名選出し、各附属学校園等の支援に参画する。
自己評価区分	D：ほとんど達成できなかった
自己評価内容	残念なことに、6年度は連携しながらの取組や活動はなかった。
学校関係者評価内容	特になし
改善策	特別支援学校の業務の一部として位置づけられているセンター的機能の分野の相談業務をどう運営していくか再検討をする必要がある。

重点目標	(4) 業務改善及び教職員の働き方に関する取組を推進する。
具体的な取組内容	(4) - 1 校務の効率化・情報化とともに、学校行事や教職員の役割分担を見直し、学校業務の適正化を図る。
自己評価区分	B：概ね達成できた
自己評価内容	校務分掌を含めた組織図を見直し、会議をする日を一定日とした。そのことで、他の会議や集まりが持ちやすくなり、全体的に教職員の放課後の時間を増やすことができた。6年度4月から中高等部の下校時刻を20分繰り上げて、15時10分とした。教職員の休憩時間の確保と放課後に会議時間を1時間設定することができるようになった。 校務分掌の内容を精査し、更なる学校業務のスリム化が必要と考える。たくさんの残業時間の中で高い教育効果のある研究成果を出したとして、それが、現代の教員の働き方としてどうなのか、附属学校園の社会的使命だからなのか。と世間や様々な関係機関から問われることになるのではないかと考える。
学校関係者評価内容	ライフワークバランスを考えた教職員の職場環境が大事である。 ICT機器を使って、校内業務の簡素化に取り組んでみてはどうかという声をいただいた。
改善策	学校としてマストなことや教員でなくてもできることを整理し、教職員の業務に係る時間を減らしていく。昔から引き継がれている根拠のない教育活動や業務をなくして、研究に必要な時間を確保していく。